

ノーモア・ヒバクシャ通信 第56号

2021年10月15日

ホームページ <http://www.nomore-hibakusha.org>
継承ブログ <http://keishoblog.com/>
フェイスブック <https://www.facebook.com/kiokuisan>
ツイッター <https://twitter.com/nomorehibakusha>

発行者
NPO 法人 ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会
〒102-0085
東京都千代田区六番町 15 プラザエフ 6F
Tel/Fax 03-5216-7757 (直通)
Email info-kiokuisan@nomore-hibakusha.org
郵便振替口座 00110-5-292881
口座名義 ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会

《目次》

I. 秋の関連行事のご案内

- (1) 昭和女子大学戦後史プロジェクトの特別展「被爆者の足跡」…………… 1
- (2) 東京大空襲・戦災資料センター（政治経済研究所）の公開研究会 …… 2

II. ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会、10周年企画の予告 …… 3

III. 未来につなぐ被爆者の記憶プロジェクトの報告 …… 4

IV. 主婦会館「原爆と人間展」 …… 5

V. 【書籍の紹介】岩波ブックレット「被爆者からあなたへ」…………… 6

核の時代に被爆者の歩みを学ぶ必読書

地域、職場、学園で読書会を開きましょう

VI. 連合「愛の基金」から助成 …… 7

今秋は、当会が収集・整理、保存した資料・記録を活用し、研究活動や地域の継承活動に取り組み、発表・展示する企画や公開研究会が予定されています。また、10周年を迎え、これからの活動を展望したシンポジウムも企画します。これらについてご案内します。皆さま方からも、周囲の方々をはじめ広くお知らせくださるようお願いいたします。

I. 秋の関連行事のご案内

(1) 昭和女子大学戦後史プロジェクトの特別展

「被爆者の足跡—被団協関連文書の歴史的研究から—」

継承する会の被団協運動史料の整理作業は、昭和女子大学人間文化学部歴史学科の松田忍准教授の指導のもと、これまで100人を超える学生ボランティアの協力ですすめられてきました。史料の整理に携わる一方、2018年度からは、これらの史料にもとづいて、被爆者たちの歩みを戦後史に位置づけようとする「戦後史史料を後世に伝えるプロジェクト—被団協関連文書—」が立ち上げられ、研究活動がつづけられてきました。

4年計画のプロジェクトは、毎秋の学園祭で企画展示「被爆者に『なる』」(2018年度)、「被爆者の『発見』」(2019年度)、「被爆者の『生きてきた歴史』展」(2020年度、オンライン)を開催し、最終年度の今年はその集大成として、学内の光葉博物館で10月23日

(土) から1か月余にわたる特別展が開催されます(日程や内容など、詳細は同封チラシをご参照ください)。

広島・長崎に投下された原爆を生き延びた全国の被爆者たちのあゆみ、被爆者運動のあゆみについての歴史学的研究(それも、若い学生たちによる)が、これほどの期間にわたってつづけられ、これほどの規模で展示されるのは初めてのこと。日本被団協や継承する会からは、第2回国連軍縮特別総会における山口仙二さんの演説原稿など、多くの貴重な資料や写真も貸し出されました。なかでも、1985年にフランスの反核運動から日本被団協に贈られた反核風は、当時の「被団協」新聞紙上で紹介されただけ。今回初めて事務所の外に持ち出され陽の目を見ることとなります。結成20年に長崎被災協から贈られた、「ノーモア被爆者」のハタ(風)や、全国行脚で受け継がれた折り鶴の被団協旗(芹沢銈介デザイン)など、めったに見られない物も観ることができます。

なお、期間中の11月13日(土)には、プロジェクトメンバーによるトークイベントも開催される予定です。

(詳細は、光葉博物館のホームページでご確認ください。<https://museum.swu.ac.jp/>)

昨年からの新型コロナの大流行で、大学もステイホームを強いられました。それにもめげず、オンラインを駆使しながら熱いミーティングを重ねてきた学生たちの研究成果。被爆者運動を知る方も、まったく知らない方も、ぜひ多数お誘い合わせのうえご覧くださるようご案内申し上げます。

(2) 東京大空襲・戦災資料センター(政治経済研究所)の公開研究会

東京大空襲・戦災資料センターの吉田裕館長から、同センターが所属する政治経済研究所が主催する公開研究会で、戦争体験の継承をテーマにした講演会を秋に開催したい。ついては、栗原さんにノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会の活動について報告していただけないか、との呼びかけがあり、11月に実現することになりました。

空襲体験者に依存したこれまでの展示から、問題別、テーマ別、歴史の流れに沿ってリニューアルしたばかりの同センターでは、コロナ蔓延の影響で入館者が激減しているとのこと。次世代継承はどの団体でも自覚していながら、実際にはなかなか踏み出せていないのが実情とあって、次世代継承研究会を立ち上げ模索しているセンターでは、この機会に継承する会の経験に学びながら関係する団体の交流の場にもしたい、と言っておられます。

継承する会の報告者には、被団協関係史料の整理作業に学部1年生のときから参加し、戦後史プロジェクトの中心メンバーとして研究してきた吉村知華さんにも加わっていただき、設立から10年の活動をふり振り返りながら、原爆体験の何をなぜ継承するのか、被爆者運動史料から何を受けとめてきたのか、を考え合うチャンスにしたいと思っています。

政治経済研究所 2021年度第3回公開研究会 あらましは以下のとおりです。

● **テーマ**：被爆者の「長い時間をかけた人間の経験」と志を未来につなぐ

● 報告者：

① 栗原 淑江 (NPO 法人ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会事務局)
「ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会の現状と役割」

② 吉村 知華 (昭和女子大学大学院修士課程 2 年)

「被爆者運動を戦後史に位置づける

— 継承する会の史料から何をどう受けとめたか —」

● 日 時：2021 年 11 月 20 日 (土) 13:00～16:00

● 場 所：オンライン (zoom)・オフライン (若干名) 併用開催

オフライン (会場参加) の場合は、

〒136-0073 東京都江東区北砂 1 丁目 5-4 資料センターの映像講話室

Tel. 03-5683-3325 Fax. 03-5683-3326

● 参加費：一般 700 円 (当法人研究会員・招待関係者は無料)

● 特 典：申込みされた方には、1 か月間映像アーカイブを公開します。

● 申込み方法：詳しくは、公益財団法人 政治経済研究所のホームページをご覧ください。

<https://www.seikeiken.or.jp/>

※ ご不明な点がございましたら、東京大空襲・戦災資料センター (電話 03-5857-5631 FAX03-5683-3326) までお問い合わせください。

II. ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会 10 周年企画の予告

被爆者の高齢化にともない、各地で解散や活動休止に追い込まれている被爆者の会が出てきています。活動のなかで残された資料の散逸についても危惧されています。

しかし、事態の打開を被爆者にのみもとめ、手をこまねいていてよいのでしょうか？

〈継承〉とは、いったい誰にとって必要なことなのでしょうか？ そしてまた、何を、なぜ、どのように〈継承〉しようとしているのでしょうか？

当会は設立から 10 周年を迎え、一方では、被爆者の歩みと被爆者運動の足跡にかかわる資料・記録を収集・保存、活用・発信する活動の拠点「継承センター」を早急につくることをめざすとともに、他方、各地に被爆者の残した証言や資料にふれ、その思いや活動を身近に受けとめることのできる継承の拠点づくりをすすめようと考えています。

すでに取り組みされている各地の活動をオンラインでつなぎ、継承活動の現状と可能性・課題について、交流・議論する討論集会を開く予定です。企画の詳細は次号でご案内しますが、以下のとおり日程を予告します。

【継承する会 10 周年企画＝予定＝】

12 月 11 日 (土) 13:30～16:00,

オンライン討論集会

テーマ (仮題) 「“ノーモア・ヒバクシャ” を継承するために」

Ⅲ. 未来につなぐ被爆の記憶プロジェクトの報告

(1) 7/31『親子で学ぶ「ヒロシマ」～紙芝居とお話～』（京都）を開催しました

親子を対象にした夏休みのオンライン・イベント。2020/12に開催したオンライン証言会で使用した紙芝居の動画「おばあちゃんの人形」（朗読は山口安奈さん 「未来につなぐ被爆の記憶」ボランティア）を上映。その後、紙芝居のモデルになった花垣ルミさんにお子さんや保護者の方からの感想や質問に答えていただく形で交流。ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会「未来につなぐ被爆の記憶プロジェクト」ボランティア・グループ、京都「被爆二世・三世の会」、京都生協の共催で開催。親子16組33名をはじめ41名が参加しました。原爆忌前、オンラインということもあり国内だけではなく香港、台湾からの親子参加もありました。閉会后、感想をメールで寄せてもらい、「全国証言マップ」に掲載しました。



ノーモア・ヒバクシャ 8月25日 ...
7月31日に親子企画を開催しました。夏休みということもあり「平和について考える」宿題として参加して下さった方も多くいらっしゃいました！きっかけは何でも、平和について考えるひと時を一緒に作れたことが大変嬉しかったです。✦(もも)



(2) 8/28『アニメで学ぶヒロシマ～父子の別れ～』（広島）を開催しました



ノーモア・ヒバクシャ 9月10日 ...
こんばんは

8月28日に【アニメで考えるヒロシマの話～父子の別れ～】を開催しました。✦

親子企画ということで、小学生のお子さんからも沢山の質問を頂き、実りある交流の場になりました。✦

そして廣中さんには、打ち合わせの段階から大変お世話になりました。また企画を出来たらと思います。◎



親子を対象とした夏休みオンライン・イベントの第2弾。クレイアニメ「父子の別れ」を上演後に、クレイアニメのモデルになった廣中正樹さんと参加者が交流しました。主催は「未来につなぐ被爆の記憶プロジェクト」ボランティア・グループで、広島県生活協同組合連合会、市民生活協同組合ならコープにご後援いただきました。こちらは8月最後の週末ということもあり参加者は親子3組6名をはじめ14名が参加。このイベントが縁となり12月に奈良県でオンライン証言・交流会を開催する準備を進めています。

全国証言マップ QRコード



(3) 9/4 オンライン交流会「いのちのバトン～継承を考える～」を開催しました

10代～70代まで30名以上の方が参加してくださいました。前半はゲストのみなさんの継承の取り組みのプレゼン、後半プレゼンを受けて質問や感想を交流しました。いろいろな活動のカタチを知り、活動の中で感じている悩みなどを交流することで、今までの取り組みを見直すきっかけになった人、次の取り組みのヒントや新たなつながりに結び付けた人など、その場限

夏の夏、「被爆体験の継承」に取り組む...
「い世代の活動を覗いてみませんか？」
NO MORE HIBAKUSHA 記憶遺産を継承する会 主催
いのちのバトン
～継承を考える～
9/4(土)19:00～
zoomにて開催！
お話しくださる皆さんです！
杉野沙歩さん 社会人
高橋悠太さん 大学3年
並川桃夏さん 社会人
本間のどかさん 大学1年
高垣慶太さん 大学1年

りで終わらないとても充実した交流会となりました。

IV. 主婦会館で「原爆と人間展」開催

継承する会の事務所のおかれている四ツ谷・主婦会館プラザエフの1階ロビーで、この夏、日本被団協が2012年に制作したパネルによる「原爆と人間」展が行われました。

以下、『主婦連たより』2021年8月号<第864号>より転載してご紹介します。

核のない平和な世界を

今年も、広島、長崎に原爆が投下された8月を迎えました。原爆投下から年、現代を生きるわたしたちがなすべきことを、あらためて心に期する機会になりますよう、原爆に関するパネル展示を主婦会館ロビーにて行っています。



日本で原水爆禁止運動が国民的な運動として全国組織化されたのは1954年でした。その年の3月、ビキニ環礁で米国が行った水爆実験により、第五福竜丸ほか日本の遠洋漁船が多数被曝し、広島、長崎を経験した日本の人々に大きな不安を植え付けたことがきっかけになっています。「主婦連たより」の1954年8月号では、全国各地でバラバラに行われていた運動を「統一し、連絡をはかり、効果的に強く世界の良心に訴えよう」と、原水爆禁止署名運動全国協議会が結成され、発起人は学界、政界、文化人、芸術家など329名に及び、主婦連の奥むめお会長（当時）が代表世話人12名のひとり選ばれたことが報告されています。

1954年の同じ号には「解説・原爆をめぐる世界の動き」という記事があり、原水爆使用禁止はやっとその問題を国際的に議論する場が国連にできたこと、しかし核兵器を保有する大国の思惑がすれ違い、問題の核心にまで立ち入った討論が行われていないと解説しています。記事は「人類の破滅より他に使い道のない水爆を作り出した世紀の科学は、世界を断崖のふちに立たせています」と締めくくられています。

21世紀も20年目を迎えた今、大国の構図は変わりましたが、核を巡る情勢はあの時のままです。核兵器の全廃へ向けた核兵器禁止条約が今年1月に発効したことは一歩前進ですが、核保有国、また所謂「核の傘」に守られている国のひとつである日本が批准していないのですから、国民的な運動はまだ道半ばである現実をつきつけられます。

核と人類は共存できません。いいえ人類だけでなく生きものすべてが、核とは共存できません。核兵器の廃絶、戦争・紛争のない平和な世界を実現し、多種多様な生物が暮らす水と大気と緑にあふれる地球を未来に残すことは、私たちの責務だと考えます。団体として、個人として、できること、やるべきことを粘り強く続けていかななくてはならないと改めて誓いつつ、日本は76回目の終戦記念日を迎えます。

主婦会館1階ロビー展示「核のない平和な世界を」

場 所：千代田区六番町主婦会館プラザエフ

展示期間：8月1日（日）から9月15日（水）まで（年中無休・10：00～17：30）

協 力：ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会、日本生活協同組合連合会資料室

V. 【書籍の紹介】

『被爆者からあなたに——いま伝えたいこと』（岩波ブックレットNO. 1048）

岩波ブックレット No.1048

日本原水爆被害者団体協議会編（定価：本体620円＋税）

被爆者から
あなたに

いま伝えたいこと



日本原水爆被害者
団体協議会 編

被爆者の歩みを学ぶ必読書として広く普及し、読書会などへの活用を呼びかけましょう。

当会の代表理事、中澤正夫さん（精神科医）の書評を8月3日ホームページに掲載しましたが、改めて以下に転載します。

* * *

すぐに読んでほしい！小冊子

原爆の事、被爆者の事、一通り知識を持っていても、日常的に何をしたらいいのかわからず流されていく人は多い。私もその一人であった。被爆者の辛い、長い闘いの歴史を知るには努力が要った。このブックレットは、それらの悩みにこたえてくれる。コンパクトで、わかりやすく、かつ、正確に、被爆の実相と、被爆者の闘いを記している。そしてそれはあなた（読者）と無関係ではないことを知らせている。手軽にとって手軽に読んで、周りの人たちに気軽に伝えてほしい。

広島・長崎に原爆投下されてより76年になろうとしている。国から見捨てられてきた生存被爆者たちは11年後「日本被団協」を結成し、国家責任と国による償い、「核兵器廃絶」へと収斂してゆく闘いを開始した。多岐にわたる支援者は絶えずあり歓迎されたが、構成員は被爆者限定という稀有な組織であった。先陣を切った被爆者の多くはなくなり、現在は幼児期や胎内被爆世代が中心となっているが、この構成と闘争目標は変わっていない。

広島・長崎に原爆投下されてより76年になろうとしている。国から見捨てられてきた生存被爆者たちは11年後「日本被団協」を結成し、国家責任と国による償い、「核兵器廃絶」へと収斂してゆく闘いを開始した。多岐にわたる支援者は絶えずあり歓迎されたが、構成員は被爆者限定という稀有な組織であった。先陣を切った被爆者の多くはなくなり、現在は幼児期や胎内被爆世代が中心となっているが、この構成と闘争目標は変わっていない。

い。核兵器禁止条約は発効したが、わが国は批准さえしていない。今も核戦争の危機は去っていない。実戦使用されなかったのは、病を引きずりながら、世界各国に出かけ、原爆の地獄を伝え、廃絶を訴えたヒバクシャたちに負うところが大きい。このブックレットはヒバクシャがこれからを生きる人たちに託す最後のメッセージともいえる。

* * *

大いに工夫しながらブックレットの大量普及を

7月はじめに発行された被団協のブックレット。日本被団協には、さまざまな感想が寄せられています。

「あらゆる運動のお手本のように励まされます。」

「被爆者運動、核廃絶運動の初心者には基本的なことがよく理解できるし、長年運動を担ってきた人にとっては、広島・長崎の被爆から禁止条約発効までの76年間でどういう意味をもってきたか、あらためてつかみなおせる。」

「泣きながら読みました。日本人は皆読むべきですよ。」

各県被団協などから、大量の注文も相次いでいるそうです。

つい最近では、静岡県被団協から360冊もの申し込み。送り先は県庁の担当課です。静岡の石原さんの話では、今年原爆展がコロナで開けなかったが、その予算をブックレットに使えないか、県内の高校に配布してほしい、と申し入れたところOKとなり、県内の高校180校に2冊ずつ配布することになった、ということです。

工夫しながら大胆に働きかけ、学校や地域の図書館、若い人たちにはもちろん、県選出の国会議員にも広めて、政府に核兵器禁止条約への署名・批准をせまる運動にも活用していきたいものです。

少人数で読み合い、学び、語り合って、その感想や疑問・ご意見を日本被団協に寄せてください。チラシ（申込書付）を同封しましたので、ぜひご活用ください。

（※ 8ページに【参考資料】掲載）

VI. 連合「愛の基金」から助成

2021年度の連合「愛の基金」より45万円を助成する旨、通知がありました。助成に心より感謝いたします。資料・記録のデジタル・アーカイブ化の事業の一部に使わせていただきます。

